



江戸の賑わいを、もう一度 「ひと市ひな市」

かつて、一ト市地区では「雛市」が開かれていました。そんな当時の賑わいと、行事の復活を目指して、3月24日(日)、町田屋旅館と二本木公園にて「ひと市ひな市」が開催されました。二本木公園では、昨年より出店やステージの内容も増え、賑わいを感じることができました。町田屋旅館には、明治時代以前から現在にいたるまでのお雛様が所有者のご好意により集まり、展示されていました。

古いものから新しいものまで、会場の1階と2階に並べられたお雛様は壮観。「こんなに古いものもあるんだね」との声も聞かれました。



1 ステージでは、地元一ト市の団体から、弾き語りの方まで、多種多様な催しが披露されました。2 ずらりと並んだひな人形に、ギャラリーやカメラマンも多く集まっています。3 個性豊かなひな人形たち。

写真説明

世代を超えて想いがこもる 4世代にわたるひな人形

「ひとつひとつ丁寧に保存していたので、今でもとてもきれいなままですよ」と、市川広さん(田中地内)は、ずらりと並んだひな人形の前でそう教えてくれました。

御年92歳になる市川さんのお宅で、4世代にわたるひな人形が一堂に飾られました。一番古いものは市川さんのお母さんの代のもので、なんと85年前のひな人形。ほかにも、市川さんの奥様のものに、お嫁さんのもの、中央の7段飾りはお孫さんのものであるとのことでした。

「全部を出したのは20年ぶりです。大変でしたね」という言葉と裏腹に、嬉しそうな表情で教えてくれました。



1 一堂に会したひな人形。左からお嫁さん、お孫さん、手前のものが奥様、右奥がお母様のものとのこと。2 ひな人形と、90歳を超えてまだまだお元気な市川さんご夫妻。

写真説明

グラフときがわ



写真でときがわの「今」をお伝えする“グラフときがわ”。珍しい情報や写真は☎ 65-0401 広報担当までお寄せください。

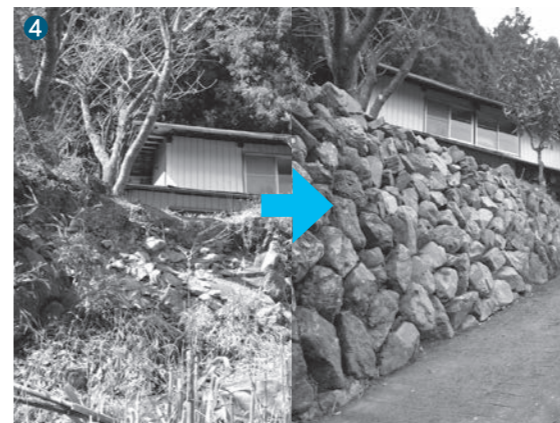
石垣の理論を学び、手積みで再生！ 大野地内で「石積み合宿」開催

大野地内にはかつて、その地形に対応するため、手積みによる特殊な石積みの技術があったそうです。現在、手積みで石垣が作られることはありませんが、手積みによる石積みの技術を学ぶため、3月9日(土)・10日(日)、「石積み合宿」が開催されました。これは、月に1回大野地内で山林の手入れをしている「月イチ素人林業隊」が主催の、埼玉県内では初となる試みです。石積みの技術と歴史を研究している先生を招き、参加者12人で大野地内にある半分崩れた石垣の修復に挑みました。

石積みは、手前に石の広い面が来るように配置し、最低3つの石と接するように置いていきます。がけ側にはこぶし大の「ぐり石」を使い、石積みの傾きの調整やがけとの間詰めに使われました。参加者の皆さんは大きな石と格闘し、それぞれ自分の役割を見つけながら協力して積んでいきました。

お昼にはNPO法人ときがわ山里文化研究所にお邪魔し、山の幸を堪能。すっかり石積みマニアになった皆さんは、道中の七重の砂防堰堤に感銘を受けていました。差し入れの炭酸饅頭でものぐもぐタイムも挟みつつ、石を積み続けました。今回、全ての箇所 completion には至りませんでしたが、全員で積んだ部分の石積みは、形が整い、真新しい色をしていました。

参加者は「思ったよりも大変でしたが、やればできるものだと思います。この技術を残していきたいです」「とても楽しめました。石が想像以上に大きくて大変でしたが」などといった感想があり、貴重な体験と、この現代に手積みによる石積みの技術を会得され、それぞれ帰路についていきました。



1 始めに自己紹介と座学、解体作業。崩した部分は再利用します。2 七重の砂防堰堤に一同興奮！3 理論はわかって、石は重いので積むのは大変！4 石積みのピフォアアフター。5 完成した部分を囲んで、みんなで記念撮影！

写真説明